

年次活動報告書発刊に寄せて

熊本大学工学部では、平成12年度（2000年度）から毎年、本学部及び大学院自然科学研究科（工学系）の年次活動報告書（年報）を刊行して参りました。本年も、本学部評価情報専門委員会ならびに各学科のご尽力により、ここに第16号が完成いたしました。

本報告書には、例年に習い平成27年度（2015年度）における教育、研究、社会貢献、管理運営など各分野における所属教員の多彩な活動の実績や、部局運営に関する組織としての取り組みを、時系列的にも比較が可能な形でまとめております。学外の方々に組織としての活動状況を的確にご理解いただき、大学運営について指導助言をいただくための情報公開が本報告書作成の目的ですが、同時に、教職員自らがその活動を客観的に振り返り、次期の活動を企画検討する際の資料として活用されることも意図しております。是非とも内容をご一覽いただき、ご活用いただけましたら幸甚に存じます。

熊本大学の第二期中期目標・中期計画期間（平成22～27年度）における大学としての目標「研究拠点大学を目指し、国際化を推進する」に沿い、工学部及び自然科学研究科では、教育研究、社会貢献における活動を展開しており、その最終年度の成果を整理したものとなります。

教育面では、6つの学科が外部審査機関からISO14001やJABEEなどの国際水準の教育プログラムの認定を継続し教育の質を保証する取り組みを継続するとともに、平成27年度に採択された「グローバルものづくり実践力の協働教育事業 ～Entrepreneurship を持ち社会や企業をリードする人材教育の実践～」により、従来「革新ものづくり展開力の協働教育事業」において実施した体感型授業や問題発見・解決型授業の開発・拡充の他に、学部・学年・国の枠を越えて、協働するものづくり教育を展開しています。平成26年度に採択された「スーパーグローバル大学創成支援」事業の支援を受け、「グローバル教育カレッジ」を設立し学部教育のグローバル化の推進しており、工学部および大学院自然科学研究科においてもグローバル化推進のための多様な取り組みを進めております。

研究面では平成25年度に選定された「文部科学省研究大学強化促進事業(RU-22)」を核に、工学部・大学院自然科学研究科においても様々な研究が活発に展開しております。「パルスパワー科学研究所」および「先進マグネシウム合金国際研究センター」の研究成果は、国際的にも高く評価せ、日本をリードする学術分野とを形成しています。また、「地（知）の拠点整備事業(COC)」に続き、平成27年度大学教育再生戦略推進費「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択され、工学部・大学院自然科学研究科の学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、熊本を中心として地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラム改革を進めております。

なお、平成28年4月14日の前震および16日の本震からなる熊本地震の発災に際して、大学をはじめとする国内外の多くの教育研究機関より物心両面でも多大なるご支援をいただきました。これらのご支援なくしてもは、熊本大学工学部・大学院自然科学研究科に在籍する学生が十分な教育を受け、社会に巣立つことさえできなかったと考えています。平成29年春を迎えようとする今も、工学部1号館の改築を含め、復旧作業を継続している状況ではありますが、平成27年度年次報告を例年に比べ大幅な遅れはあるものの発刊することができました。今回の熊本地震の際に受けた多くのご支援に報いるためにも、教育・研究・社会貢献という大学として責務を、着実に果たすための取り組みを教職員が一丸となり取り組んでまいります。これまでの実績や蓄積、さらには今回の熊本地震で学んだ多くのことを踏まえて、教育力や研究力に一層の磨きをかけ、世界水準の教育と国際的に卓越した研究の実践に努力したいと思っております。今後とも、熊本大学工学部の活動に対し、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年2月

熊本大学

工学部長・大学院自然科学研究科長

宇佐川 毅